

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし



22区(坪谷)の南に位置する八丁地区。その集落の中に八丁神社はあります。年数とともに、老朽化した建物。この風景も今だけしか見られません

八丁神社

八丁神社は、邑楽町の最南端で西寄りの集落に鎮座している小さな神社です。千代田町に隣接している集落の一部に鎮座し、何時も、集落住人の安全と幸せを願い見守っています。

神社の設立は、昭和15年(1940)。当集落の大地主の一人であった、故新井豊作様と思います。住人たちに会衆の場を持つように取り計らったものと聞いています。

当時集落の戸数は15戸、住人たちの生活は、利根川の大洪水により逃れて来た人、親の借金から逃れて来た人、商売が行き詰まり逃れるように来た人が多かつたようで、そういった人たちの寄り場所として、八丁神社が建てられたようです。

八丁神社の設立は、集落の守護神だけでなく、第二次世界大戦の必勝の願いもあつたものと思われまます。

春先、水温む頃となると、畑の草取りが忙しくなり、夕方早く集まれと言わんばかりに、太鼓の音が聞えてきます。八丁神社のお祭りの日です。子どもたちが大勢集まって来て、小さな手に山盛りの赤飯をもらい大喜びでした。

秋になり、木枯しの吹き始める頃になると秋の収穫祭として、また大きな太鼓

の音が聞えてきます。八丁神社の秋祭りです。年に2回、春と秋の祭典を行っていました。

土産神の主として、新井金二氏(現新井耕一さんの曾祖父)が使っていた硯と、伊勢大社の皇大神宮の二柱が祭られているといわれています。設立以来70数年の月日、集落を見守りながら鎮座している神様のおかげか、現在集落の戸数は約40戸になり、昔と比べ豊かな生活を送りながら、今に至ります。



長柄村時代に配置されたポンプ車

八丁神社の北側には古いポンプ車が置かれていました。これは当時、八丁地区が他の地区から孤立していたため、非常時に備えて、配置されたそうです。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
(平成23年10月28日発行「邑楽町風土記(第十集)あすへひとこと」)より



初夏の夕べ
(中央公園)



Photo 高根澤高明(記録ボランティア)

ひとりごと From editors

▶新しい元号「令和」になり、なにかを始めるには最高のタイミングです。そこで私は、高速道路を使わずに鹿兒島県まで車で行くという認めいた挑戦をしました。その道中では、今話題の「ひとりキャンプ」にも挑戦してみました。ひとはひとりの良さがありますが、やっぱりキャンプは大勢で行うほうが楽しいですね(笑)。▶今月号の14ページに掲載したリーダーキャンプ。自然の中でたくさんの仲間と助け合い、笑い合いながら行うキャンプはきっと一生の思い出になります！薪で炊くご飯、ドラム缶のお風呂、星空の下のキャンプファイヤーなどステキなプログラムが満載。新元号記念に、今年はいつもと違う、新しい夏にチャレンジしてみたいかがでしょうか。(木村)

編集・発行 邑楽町役場企画課

〒370-0692(住所記入不要)

☎0276-88-5511(代表)

☎0276-47-5007(企画課直通)

☎0276-89-0136

☎https://www.town.ora.gunma.jp
✉kohno@swan.town.ora.gunma.jp

おうちお知らせメール

配信を希望する人は、右のQRコード

から、ご登録をお願いいたします。

☎http://cc9.easypocket.jp/Or+1747PC
☎http://cc9.easypocket.jp/k/ (携帯専用)



QRコード



携帯電話